

# 岡崎嘉平太記念館

7

号 2007.7

だより



愛人者人恒愛之  
難波佑三郎兄翁 岡崎嘉平太書

岡崎嘉平太氏遺墨

愛人者人恒愛之(人を愛するものは、人恒に之を愛す)

昭和48年3月17日書

「人を愛するものは、人の方からも常にこれを愛するようになる」という意。中国の古典で四書の一つ「孟子」の離婁章句下(りろうしょうのくげ)にあるくんだり。

為書にある難波佑三郎氏は、岡崎氏の姪である寄贈者 安恵氏の夫君です。  
岡崎嘉平太記念館所蔵

## サービス業の原点

私は在職中、やかましく経費節減を口に出したが、これはたんなるケチ奨励ではない。冗費を見つけ出すくせをつけることによって、物事の本質が見えてくるからなのである。航空会社の本質はサービス会社だから、サービスの本質がわからないと仕事をする目標も決まらない。

サービスというのは、お客様を喜ばせることであるから、危険であってはならず、きちんと時間が守れなくてはならず、その上不愉快であってはならない。これが“安全・定時・快適”という標語になったが、これは言うに易く、行うに難い目標である。これをおこなうには“相手の身になって”考えていれば、先ず見当がはずれることはない。

われわれは、自分がかわいいから、なかなか“他人の心”になりきれない。それを無理におこなおうとすると、ぎこちなくなったり、偽善めいた行動になる。これではお客様を愉快にすることはできない。他人を愛することを自分を愛するごとくする、ということを実感として感じるには、自分は他人のおかげで生きているという理解に達しなくてはならない。これが結局は、自分のためではなく、他人のために働こうとする動機づけになるのである。(中略) 私は全日空の創業期からかわわりを持ってきたが、今日振り返ってみると、その間に何度も経営的危険を経験した。しかし、そのつど“艱難汝を玉にす”という言葉があるとおり、苦しいことがかえって社員を団結させ、その情熱が私を支えてくれた。これは、社員が私に信頼を寄せてくれたおかげと感謝している。

岡崎嘉平太著『二十一世紀へのメッセージ』より抜粋

## 岡崎嘉平太先生 生誕110周年記念事業

本年4月16日、岡崎嘉平太氏生誕110周年を迎えました。このことを記念して展覧会、講演会、写真展を開催しました。没後18年の今も嘉平太氏の功績をたたえ、お人柄を偲ぼうという大勢の方々に接し、大変ありがたく、嬉しく思いました。

### 「郷土の偉人 岡崎嘉平太展」

4月10日(火)から4月15日(日)まで山陽新聞社さん太ギャラリーにて「郷土の偉人 岡崎嘉平太展」を開催しました。

4月10日には、オープニング行事として山陽新聞社中庭にて、吉備中央町から化気神社獅子舞保存会による勇壮な獅子舞と、野山の会による餅つきが行われました。つきたての餅が振るまわれ、「おいしい」と大変喜ばれました。

4月12日には山陽放送「イブニングDONDON」に河田館長が出演し、このたびの展覧会の紹介や岡崎氏の生涯並びに功績を紹介しました。

展覧会の開催中は、900人を超えるお客様の来場がありました。



展覧会場の様子



オープニング行事の様子

### 「岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える 第六回 講演会」



講演会の様子

4月25日(水)、山陽新聞社さん太ホールにて「岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える 第六回講演会」を開催しました。

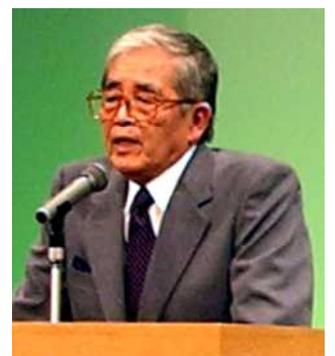
演題「息子として60年」・岡崎彬先生(嘉平太氏ご長男)  
演題「岡崎先生を偲ぶ」・大橋洋治先生(全日空会長)



大橋洋治氏

講師のお二人から、嘉平太氏の父親像、そして、先輩、経営者として遺した将来を見据えた理念や、温かみのある具体的なお話をお聴きすることができました。

会場は300名を超える聴講者で一杯になり、熱心に聞き入られる様子に関心の高さがうかがえました。



岡崎彬氏

## 「嘉平太が愛したふるさと岡山 心なごむ風景 写真展」

6月20日(水)から7月20日(金)まで岡崎嘉平太記念館研究室にて「嘉平太が愛したふるさと岡山 心なごむ風景 写真展」を開催しました。嘉平太氏が愛したふるさと岡山に残る豊かな自然や心なごむ情景を多くの人と共有し、後世に伝えたいとの考えから募集しました。

6月5日(火)、中村昭夫先生(写真家)、森山知己先生(日本画家)、河田啓子館長で応募総数60点の審査を行いました。

6月24日に(日)表彰式を行い、賞状や記念品を贈りました。



最優秀賞  
「ふる里の母」山田靖男氏

## 岡崎嘉平太国際奨学財団17期奨学生の訪問



墓前で手を合わせて

岡崎嘉平太氏は、中国をはじめとするアジア諸国の人づくりを支援し、民族間の相互理解とアジアの平和、ひいては世界の友好と平和を唱えていました。氏の遺産を基金として設立された(財)岡崎嘉平太国際奨学財団では、アジア各国から、日本の大学院で学ぶことを希望する優秀な学生を招聘し、奨学金等の支援を行っています。

新しく選ばれた奨学生たちが、毎年、岡崎嘉平太記念館を研修の為に訪れています。今年は5月27・28日の日程で、王さんと李さん(中国)、ハーさん(ベトナム)、ジップさん(タイ)、そして第11期生のケイさん(ミャンマー)と奨学財団事務局の方が来館されました。

岡崎家のお墓参りをした時、間もなくミャンマーへ帰国するケイさんは、涙を流しておられました。その後、地元の方の協力で大和山山頂で桜の苗木の記念植樹を行いました。留学生たちは「生涯を日中友好に捧げた先生のように諦めず努力する」、「(植樹は)日中の架け橋となる決意の印」と感想を寄せられています。志をしっかりと持った明るくさわやかな女性たちで、尊敬と親しみを感じました。このほか、備前焼作家上田玄明氏の指導で地元の方々と一緒に備前焼土ひねり体験、翌日は、岡山県生活環境部長表敬訪問、新緑の美しい岡山後楽園見学など岡崎氏の故郷の人々や文化に触れました。



望郷の碑の前で地元の方々



植樹した桜の前で



大和山の休み堂で土ひねり

# 岡崎嘉平太記念館ものしりトピックス

嘉平太氏のご三男、眞様のご寄贈により、岡崎嘉平太記念館のホームページ上で嘉平太氏のご著書『私の記録』電子ブック版を無料で読むことができます。嘉平太氏の人生観・世界観、終戦前後の中国上海での史実など大変興味深い内容です。

電子ブックを読むにはFlipViewerのインストールが必要です(無料)。「私の記録を読む」をクリックすると自動的にインストールが始まりインストールが終了すると続いて『私の記録』の閲覧ができます。一度ご覧になってみてください。

ホームページアドレス <http://www.kibicity.ne.jp/users/okazaki/>



おかざきかへいた わか ころ にほんぎんこう してん はたら  
岡崎嘉平太さんは若い頃日本銀行のベルリン支店(ドイツ)で働いていたことが  
かへいた がいこく い とち ひと かんが かつ  
あります。嘉平太さんは外国に行ったときはその土地の人とよくつきあって考え方を  
べんきょう たいせつ い ねんまえ か かへいた  
勉強することが大切だ、と言っていました。50年前に書かれた嘉平太さんの  
ぶんしょう いちぶ しょうかい わたし しょうわ ご ねん はちねん さんねんあまり  
文章の一部を紹介します。『私は昭和五年から八年まで三年余、ベルリンに  
ちゅうざい ゆうじん かつて なんじゅうかい しょくじ きかい も  
駐在してドイツの友人の家庭で何十回となく食事をもとにする機会を持った・・・  
かつて 子供 かわ みる こと  
ある家庭では、子供がリンゴを食べるのに皮をむかないで丸かじりである。子供は  
た お しん りょうはし にほん ゆび ちちおや み  
食べ終ると芯の両端を二本の指でささえて、パパこれでいいかと父親に見せる。  
ちちおや み た ゆび おし こと  
父親はそれをよく見て、まだここが食べられると指さして教える。子供はごく  
わず さ ぶぶん にほんじん しょくじ かつ  
僅かでも指された部分をかじるのであった。・・・われわれ日本人の食事のあり方と  
むだ おお むだ ちそう  
くらべて、いかにわれわれが無駄を多くしているか、無駄をすることがご馳走の  
しゅうかん てん おも ざんき かん  
ように習慣づけられている点に思っていたって慚愧をすら感ぜずにはいられなかつ  
た・・・』(岡崎嘉平太著「サラリーマンの人生経営」より)。〔\*慚愧 = 心に深く恥じること〕

ドイツの人のものを大切にすることを習慣について書かれています。実際に、嘉平太  
むすこ あきら かわ た あと ちちおや りょうかい  
さんの息子さん、彬さんは、「皮のままりんごを食べた後、父親に了解を  
た  
もらうまできれいに食べていた」とおっしゃっています。

むだ たいせつ おやこ つた あ  
無駄をしない、ものを大切に、親子で伝え合いたいですね。



編集・発行：岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6きびプラザ内

TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066

ホームページ <http://www.kibicity.ne.jp/users/okazaki/>

Eメール [okmh@kibicity.ne.jp](mailto:okmh@kibicity.ne.jp)